

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第130回放送の概要 (2018年2月24日放送)

パーソナリティ
たろう
(佃 由晃)
なか
(中嶋邦弘)
かりん
(妹尾優香)



ミキサー
門ちゃん
(門田成延)
会計
小山俊則
相談役
わだかん
(和田幹司)

1. ゲストコーナ(1) 兵庫高校創造科学科一年生の近藤歩美さん、山本広我さん、鈴木理紗子さん、成田隼人さん、早崎浩先生、窪田勉先生

初めに4名の創造科学科一年生に出身中学と部活を伺います。

近藤歩美さんは井吹台中学、器械体操部、山本広我さんは高取台中学、ギターアンサンブル部、鈴木理紗子さんは西宮市立甲陵中学、水泳部マネージャー、成田隼人さんは太田中学、帰宅部。

創造科学科は、未来社会を創造するグローバルリーダーの育成を目的にしている。世の中には正解のない課題がたくさんあり、それらを解決するための力をつける学習をしている。創造科学科の特徴の一つは、文系理系のどちらの進路も選べる事、二つ目は兵庫高校オリジナルの教科「創造」の中では、社会科学系の課題と自然科学系の課題解決を通じて学ぶことが出来る。兵庫高校は元々普通科のみであったが2016年度より創造科学科が増えて2科になり、入学試験日も異なっている。

1. 創造科学科志望動機など

近藤さん：文理融合型の授業と少人数授業に惹かれた。今後理系を選択予定であるが、文系の色んな企画、イベントに参加出来るし、少人数授業では数学と英語が普通科とは違い、わからないことはすぐに質問が出来ることがいいと思った。進路に関係ないイベントにも沢山参加出来て視野が広がった。関学で留学生と一緒に1泊2日で英語で過ごす国際交流の集いに参加したり、模擬国連の見学に参加出来た。

山本さん：今のうちに出来ることをやっておきたいと思い、将来社会で必要なコミュニケーション能力、問題を解決する能力は普通の高校生活では身につかないと思い、高校生活の中で身につけたいと思った。コミュニケーション能力は、今自分が苦手なためである。入学し1年未満であるが、校外で色々な人との接触、外国人としゃべる機会も多く、コミュニケーション能力はかなり向上した実感があり、今後の2年間で更に向上したい。RRE科目(Research and Report in English)の中で、兵庫教育大学の外国人留

学生と英語で日本の政治というテーマでディスカッションが出来た。

鈴木さん：普通の高校生生活ではない違うことをしたいと思った。自分は文系でも理系でもないと思っている。研究は理系と言うイメージがあるがそれでは視野が狭くなると思い、文系の研究も出来る文理融合型の創造科学科を選んだ。1年生では社会科学分野と自然科学分野の研究を並行して取り組み、研究方法、発表方法が異なるが、創造科学科の融合型としての学び方がよい。

成田さん：中学2年の時に高校を選ぶ時、教科「創造」に目が止まった。自然科学分野では理学的実験を大学院生と共同で行ったり、社会科学分野では色々な立場の人と一緒に社会的問題を考えていくというのは、普通の高校生活では体験できない。このような活動から身につく能力は、大人になった時には必要な能力と思ったので、今のうちからそのような活動をすることが後々役立つと思った。

創造科学科の活動は、父兄から見てもレベルが高いと認識され、賛同を得ている。

2. 社会科学分野の活動について

近藤さん：駒ヶ林にある長田港の知名度を上げようという活動で、元々長田区主催の「親子で楽しむ漁業体験ツアー」があり、昨年7月にボランティアとしてツアーに参加し、その時の反省点、改善点について企画し、今年1月のツアーで実行した。前回のツアーでは、初めに長田の漁業についてのお話があるが、小学生には難しい内容で興味を持って聞いていなかった。今回は、説明を聞いていないと間違える〇×クイズを企画したところ、熱心に聞いて正答率も高かった。今回のツアー定員は親子20組。前回競りの見学時に魚の値段に目がいき、競りを楽しんでいなかったので、競り専用の模擬通貨を作り、値段を気にせず楽しんでもらうようにした。そのデザインは、長田はいかなごしか有名でないと思われるので、冬の魚チヌをモチーフにしたキャラクターを作った。参加者の反応がよく満足出来る結果が得られた。漁師の方は最初からフレンドリーでよかった。



山本さん：長田区は神戸市内でも少子高齢化が進んでいるので、長田に若者を呼び込むために、インスタ映えするスポットを作ることにした。長田区役所やレンタルスペース「r3」の合田さんの協力を得て、駒ヶ林に建設の始まった兵庫県×神戸市合同庁舎の工事用壁に、自分達の提案したデザインを用いてアートを作ってもらうことになった。提案した相合傘のデザインを壁に描いてもらい、その中に2人が入り写真を撮ってもらうことを考えている。その写真をInstagram、ツイッターなどにアップして拡散しても

らうことを期待している。相合傘のデザインには、地域の小中学校生や兵庫高校1年生の協力を得て集めた手形を400~500人分程使用する予定。



兵庫県×神戸市合同庁舎

鈴木さん、成田さん：長田区はイベントがすごく多いが、同じクラスの長田区民でもあまり知らないなど、知名度が低いことに注目し、長田区のイベントを知ってもらい興味をもってもらうことが大事と思った。高校生鉄人化まつりに焦点を絞り、区役所、神戸鉄人化プロジェクトを訪問し、イベントを盛り上げるための内容改革、知ってもらうための広報手段について提案し、意見をもらった。育英、野田、兵庫の3校が鉄人化まつりの実行委員になり、自分達の考えた企画を議論している。



実行委員会

広報についてはSNSの拡散力が大きいので、今まではあまりやってこなかったツイッターの活用を考えている。また長田区内でチラシの配布やポスターの掲示も効果が大いと思っている。長田区内の高校、実行委員の出身中学校にチラシの配布やポスター掲示を考えている。

今年の鉄人化まつりのテーマは「長田に架ける虹の橋」で、虹は個性を表し、橋はその人々を繋ぐというメッセージを表している。兵庫高校から参加する部は、吹奏楽部、弦楽部、ダンス部、ギターアンサンブル部、書道部で3月17日（土）に開催される。

2. ミュージック：

お送りしている曲は、デュオグループのハルカナル作詞、作曲、歌による「Friday」です。

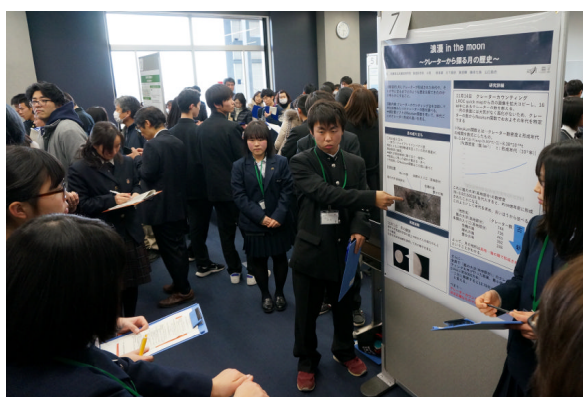


3. ゲストコーナー（2）

3. 他高校、大学との交流について

山本さん：「高分子から見るテーピングの選び方」というテーマで、神戸大学院生と交流し、研究した。非常に難しい内容であったが、院生が大事なところをわかりやすく説明してくれたので、高校生にも理解することが出来た。メールで質問した時も丁寧に返信があり、自分の研究を進める上で大きな協力してもらい、大変感謝している。身体の一部を固定する際に使用するテーピングは、製品により粘着力、撥水加工などの性質が大きく違うので、高分子単位で見た時に含まれている物質にどのような違いがあるのかを研究した。結果は一応得られたが、使用した赤外線分光法の限界があり、含まれている物質ごとの細かい性質の違いを、明確に結論づけるには至らなかった。

近藤さん：蛍光X線を使って、班員の吹奏楽部員の要望で、自分の楽器の表面の成分を分析する研究をした。その結果を神戸高校との**交流研究発表会**で発表した。発表会には大学院生、大学の先生なども参加されており、発表内容について、違うのではないかと、ここは調べたのかなど厳しい意見があり、自分達の発想の不足点などを発表することで気づかされたことがあり、そのような事で研究が深まっていくことを実感した。発表の場で自分達が思っている事を言っても、初めて聞く人には理解してもらえない場合がある。結果を発表する時、本当に話したい内容のポイントを絞り説明することが難しかった。発表会には明石北高校も参加していた。発表で質問に答えられなかった時は恥ずかしさが残るが、質問されたことで自分達の研究も深まり、その後の最終発表の時には、先生の質問を基に班員と話し合い、考察まで仕上げる事が出来、とてもいい経験が出来た。



神戸高校での合同研究発表会

近藤さん、鈴木さん：2人は福井大学教職大学院主催の「実践研究福井ラウンドテーブル」に参加した。ポスターセッションで兵庫高校のほかに、奈良や福井の小中高の児童・生徒による発表がおこなわれた。高校生鉄人化まつりについて発表し、鉄人化まつりが生まれた課程、しくみ、今回のまつりの企画内容を発表した。最初ひねっていない無難な企画内容を発表したところ、それでは面白くないと指摘され、鉄人化まつりはこの内容ではダメなのだと気づき、はっちゃけた高校生にしかできない面白内容にしなればとメンバーと話し合った。その結果どんどん変な方向に進んだが、鉄人化まつりはこういうものだど気づき、その過程を発表した。



ポスター発表では、原稿なしで聞いている人の目や反応を見て発表し、理解されていないと思った時は説明をやり直したのでいいプレゼンが出来た。発表会には高校生は3校、福井県内の小中学生も参加して

おり、長田区の話をして“行かへんや”という反応を予想したが、沢山の人に聞いてもらえ充実した気持ちになった。

発表会の後半で「イノベーションを語ろう会」があり、小中学生合同のチーム、高校生は3～4人が組になり、学校生活の中で今ある常識を壊し、新しいルール、方法を作り、よりよい学校にするにはについて議論した。自分達のグループでは授業体系を変えるのが良いという意見を提起した。通常黒板に向けて先生の話聞くだけだが、学校での少人数の数学の授業は、グループワークになっているので班の形をしていたり、前を向いているが廻りとしゃべってもいいことになっており、わからないところを相談し合え、しゃべれる環境がある。そこでは先生にも質問しやすく、一方的に聞くよりも、しゃべれる環境を与えられているので、自分の思っている事を小さな声を出しながら整理しながら勉強を進められる。自分がどこがわかっていないかも、口に出すとわかりやすいことがあることを参加者に話すと、賛同してくれた。聞くだけという授業でなく、相談してよい、しゃべってよい、班の形にしてグループワークで自分達の考えをしゃべりながら進める授業は、他校にも授業に興味を持てるのではないかという提案をした。これは早崎先生の授業で行われており、話す方も自分の頭で整理しながら話し、聞く方もなるほどと聞けるので、お互いにいい面がある。他の通常の授業と比較すると、早崎先生の授業の方がどこがわからないか気づきやすいこと、生徒がわからないと発言することで、先生も理解されていないところに気づきやすい。



イノベーションを語ろう会

成田さん：立教大学での発表は3月末で今準備中である。シチズンシップ教育ミーティングが開催され、自分達の研究（鉄人化まつり）について発表し、若者のこれからの政治参加などに関する講義を受ける。

4. 元外務省事務次官 藪中三十二さんの講義

成田さん：他の講義の場合は講師のお話を聞いて、後で自分の考えをまとめる。藪中さんの場合は、藪中さんが初めに問題を提起し、生徒の誰かに考えを聞き、その後参加生徒が答えを考え、それに対して藪中さんが意見、解決策を言う。今回提起されたテーマは「世界はどこに向かっているのか」で、世界の状況が混乱している中で、それぞれの国の状況を学び、軍備拡張についてどう思うかなどを質問され、また「日本の外交課題」のテーマでは、今、日本が直面している状況に対し、こういう方向に進むべきという藪中さんの意見に対し、どう思うかを質問され、生徒の答えに対し考えを示される。

「日本はどの方向に進むべきか」について成田さんに質問すると、「日本は今アメリカに流されているが、アメリカが核兵器の小型化により核廃絶とは別の道に向かっているなど、軍備拡張に向かっている中で、日本は軍備拡張をせずに今の日本の状況を貫くことで、大変な世の中を切り抜ける方向を自分達も考えたい」としっかりした意見を披露してもらえた。

4. 地域瓦版

新長田駅西側の若松公園内に、2009年10月鉄人28号モニュメントが設置され、2011年の「鉄人まちづくりイベント」の企画に、創造科学科の前身である総合科学類型の生徒が応募し、最優秀賞を受賞し「高校生鉄人化まつり」が始まった。

第8回高校生鉄人化まつりは、3月17日(土)11時から鉄人広場で開催されます。実行委員のメンバー校が屋台を出し、展示し、舞台では部活動など学校活動の発表の場となります。普段見る事のない高校生達の活動を楽しんでください。

第8回 長田区・高校生
鉄人化まつり

長田にかける虹の橋

2018年3月17日(土)・11時~
新長田・若松公園 鉄人広場 (雨天時、六間道五丁目商店街)

企画制作/高校生鉄人化まつり実行委員会 主催/KOBE鉄人PROJECT 協力/長田区役所
参加予定校: 神戸常盤女子高等学校、神戸野田高等学校、神戸杜野工業高等学校、長田高等学校、長田商業高等学校、美川高等学校、夢野台高等学校、兵庫高等学校、育英高等学校 (順不同)

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>